

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水（浮くかな、沈むかな）

<テーマの設定理由>

子どもたちが大好きな「水」に触れながら、「浮く」「沈む」「動いて（流れて）いく」不思議を楽しめるよう、「水」を通して「不思議」をテーマとした。

2. 活動スケジュール

0.1歳児クラス 12名（0歳児…3名、1歳児…9名）

・7月～9月 月1回

- ・水遊びでも十分水に親しみ遊んでいるが、ぶかぶか「浮く」ものと「沈む」ものの動きの違いを感じて楽しむ
- ・水が流れることで動く「不思議」を知り、流れた水やおもちゃがタライに集まる様子を見る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

<準備> プールでリングつなぎ、タライ、とい、じょうろ、水

<環境の設定>

- ・水着を着た水遊びとは環境を変えることで、浮く、沈む等をより感じられるようにする。
- ・自然に動く（流れる）不思議を感じながら、自分でおもちゃを置いてみる経験が出来るよう、十分な数のリングを用意して行う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・プール遊び用のリングつなぎには浮くものと沈むものがあることから、子どもたちと一緒に「水に浮くかな？」「沈むかな？」と考えながら、浮くもの沈むものの動きの違いを感じる。
- ・といを使い、斜面を転がる、止まる、流れる動きを楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

- ・水の中にあるものが「浮く」「沈む」「動く」ことのおもしろさや面白さを感じていた。水遊びでは全身で楽しむ子どもたちも、指先を使い、動くおもちゃを捕まえる様子や、流れる動きに合わせて手や視線を動かして捕まえようとしていた。
- ※詳細は2枚目以降に記載

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「プールでリングつなぎ」は本来「浮く」「沈む」2種類が特徴の玩具であるが、普段室内でリングつなぎとして遊んでいたため、身近な玩具で「浮く」「沈む」の違いを楽しむことができた。子どもたちは浮くものを捕まえる際には指先を上手に使い、動くものを掴む際は、手の動き、視線の位置に小さい子なりの工夫が見られた。浮く、沈む、動く、それぞれに感じた「ふしぎ」が楽しい経験となっている。家庭からも、風呂の中で「浮く」「沈む」を親子で楽しむ報告もあり、子どもたちの興味関心の広がりも見られている。今後も子どもたちと一緒に「ふしぎ」を見つけていきたい。

*映像や写真を見ながら全職員で活動研究を共有し、保護者様には降園時に会話や掲示、クラスだより等で報告。子どもたちの活動内容や楽しむ様子をお伝えした。

とうきょうすくわくプログラム 活動報告

東野川保育園みんなの家 ちゅーりっぷ組 0・1歳児（12名）

テーマ
水

水は、触ると気持ちよかったり、流れたり、形が変わったりと不思議がいっぱいです。遊びの中で水に触れることで「なんでだろう？」という気持ちを大切にしながら、楽しく発見できるようにしたいと考え、このテーマを設定しました。

活動① 水に触ってみよう
浮くかな？沈むかな？

用意したもの：リングつなぎ、たらいなど

7月、たらいに水を張り、子どもたちは手で水に触れたり、すくったりして感触を楽しみ、その後、普段遊んでいる玩具を用意し、水に入れて遊びました。



なんだかどきどきするなあ…
でもたのしくなってきたよ！
もうすこしやってみようかな～

これも！これも！
ういてるのをつかもうとすると
すーっとうごいて「いっちゃった～」



活動② 【とい】って何？

用意したもの：とい、ボール、玩具



8月、保育者と一緒に上からボールなどを転がし、下へ進んでいく様子を見て楽しみました。繰り返し転がす中で、手を伸ばして玩具を置こうとしたり、転がっていく様子を目で追ったりしていました。

わー！ころころ！
もういっぱい！もういっぱい！

活動③ [とい] で玩具を流してみよう！
水を[とい]に流して、玩具を入れて流れる様子を観察した。
玩具が水に乗って流れるのを見て、繰り返し遊ぶ。

用意したもの：とい、リングつなぎ、たらい、みず、じょうろ

9月、[とい]に水を流し、じょうろを使って水を流す中で、水の動きや変化を楽しみました。
手で水に触れ、その冷たさに心地よさを感じながら、玩具の素材によって滑るものと滑りにくいものがあることに気づいていました。



いっぱいおいたら
ながれないなあ

ながれた！！
おもしろいね～



(保) あれ？みて？
[とい]の下に置いてあった
たらいの中のおもちゃ！
浮いてるのと沈んでるのがあるよ～

活動を振り返って

[とい]を使った遊びでは、水の無い環境では玩具の転がりや動きを楽しむ姿が中心でしたが、水を取り入れることで遊びに変化が見られました。玩具が浮いたり、沈んだり、流れていく様子に気づき、「どうなるのかな？」と繰り返して楽しむ姿がみられました。今後も、水の量や玩具の種類を工夫し、さまざまな変化に気づける環境を整えながら、子どもたちの興味や発見といきいきとした表情を大切にしたい遊びへと繋げていきたいと思ひます。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水（しゃぼん玉）

<テーマの設定理由>

手洗いの際に始まること多い泡あそび。泡の楽しさをより感じられるしゃぼん玉を通して、泡の大きさや形などについて楽しみながら探求していきたいと考え設定した。

2. 活動スケジュール

3.4.5歳児クラス 38名（3歳児…12名、4歳児…13名、5歳児…13名）

・2月～3月 月1回

・2歳児と一緒にしゃぼん玉遊びを行った。息の吹き方を変えることで大きさが変わる変化を楽しみながら遊ぶ。

・いろいろな道具を使いしゃぼん玉を作り、手を動かす速さを調節しながら楽しむ様子が見られた。しゃぼん玉に絵の具を混ぜ、しゃぼん玉のできる形・模様・色を楽しめるようにする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

準備・しゃぼん玉セット、たらい、水

環境設定

・吹いて遊ぶしゃぼん玉の他に、しゃぼん玉を作る道具も用意した。道具は輪の形により難易度が異なるため、好きなものを選べるようにした。

・吹くことを理解できる時期を待って行ったが、吹く際は職員がしっかりと見守り行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・口で吹いてしゃぼん玉を作ってみる。「壊れないためには？」と子どもたちは工夫しながら上手に作れるようになっていった。道具を用意し、より多くのしゃぼん玉づくりに挑戦した。

・消えてしまうと見えないしゃぼん玉の形を残そうと、しゃぼん玉アートを行ってみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・子どもたちは「壊れないためには？」「たくさんつくるには？」「大きいのを作るには？」と、息の吹き方を変えながら思い通りのしゃぼん玉を作ろうとしていた。道具を見つけると、選びながら次々に挑戦し、手の動かし方、速さを加減し、工夫しながら上達が見られた。

・しゃぼん玉を形に絵の具を混ぜ、しゃぼん玉のできた模様と、色と形を楽しみむ姿が見られた。

・詳細は2枚目以降に記載

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

しゃぼん玉を吹くことが難しい児もいることから時期を待ち行った。時期を遅らせ行ったことで、ゆっくり吹きながら大きいしゃぼん玉を作れる児が多く見られた。道具を揃えたことで、難易度を見ながら自分で選び行う様子や、年長児から作り方を教えてもらいやってみる姿があった。

しゃぼん玉アートでは、すぐに消えてしまうしゃぼん玉の形が残ることを不思議そうに、また嬉しそうに見て模様を楽しんでいた。

*映像や写真を見ながら全職員で活動研究を共有し、保護者様には降園時に会話や掲示、クラスだより等で報告。子どもたちの活動内容や楽しむ様子をお伝えした。

とうきょうすくわくプログラム 活動報告

東野川保育園みんなの家 ひまわり組3・4・5歳児(38名)

テーマ 水

不思議な変化や色合いを楽しみながら好奇心を育むこと。自分で吹いて作る楽しさや、他の道具に変えて大きさを工夫する、色をつけてみるなど、色々な遊び方を自分たちで考え、経験することをねらいにしました。

① シャボン玉を作ろう

用意したもの：シャボン玉セット、たらい、水

《2月》

2、3、4歳児さんと様々な道具を使ってシャボン玉遊びをしました。

はじめは、思い通りのシャボン玉ができずにいました。

どうやったら上手くできるのか色々な方法を行っていくうちに発見！



「そーっと吹くと、大きいシャボン玉ができるよ！」
「フーと勢いをつけるとたくさんのシャボン玉ができた!!」と吹き方を変えてシャボン玉を楽しんでいました。

今度は、「違う道具を使ったら、どんな形のシャボン玉ができるかやってみよう！」と、様々な道具を使っての遊びが、はじまりました。

「これは、たくさんのシャボン玉ができるよ」

「こっちの方が、こわれにくいみたい」と伝え合う姿もみられました。



②しゃぼん玉アートを楽しもう！

用意したもの シャぼん玉セット、絵の具

《3月》

しゃぼん玉液に絵の具を入れたらどうなるのか、行ってみました。

「あれ～色がついているのかわからないね～」ということで…



吹いただけでは、色が着いているのかははっきりしないので、紙の上に吹いてつけてみることにしました。

大きな模造紙に色が着くたびに「きれいだよ」「こっちもみて～」と次々できるしゃぼん玉アートを喜んでいました。



「色を重ねたらどうなるのかな?」「近づけて吹いてみよう」と自分たちで、吹き方を工夫しながら行い、「はじけて水玉がたくさんできたよ!」「しゃぼん玉の丸が重なってきれいだね」と、模様ができることを楽しんでいました。

活動を通して

しゃぼん玉という活動一つでも、子どもたちは色々な方法を楽しみ、自分たちで考え、次に広げていく姿がみられました。

終わった後も「またやりたい!」「こんどは、～をつかってみたらどう?」など、わくわくと好奇心は止まらない様子でした。

子どもたちの興味、関心を次につなげられるように、年齢や発達段階にも考慮しながら、さらに活動を広げていきたいと感じました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜猫会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

不思議 (どうやったらできるかな?)

<テーマの設定理由>

園庭の「丸太の吊り橋」に2歳児が挑戦するが、なかなか上手く歩けない姿があった。子どもたちの好奇心、バランス感覚や体の使い方を、楽しみながら探求していきたいと思い設定した。

2. 活動スケジュール

2歳児クラス 10名

・2月～3月 月3回

・園庭や室内で運動遊び、サーキットコースやごっこ遊びなど、様々な遊びとして体の使い方を探求していく。

・発達や上達に合わせて道具の高さや難易度を変えながら行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・ウレタンブロック、ハードル

環境の設定

・不安なく参加できるように、幅や高さを段階的に増していくなど、子どもたちの安心感、達成感が次のステップにつながるよう、難易度の異なるコースを用意する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・自分で高さやコースを選び挑戦したり、ペースも自分で決めて行うため、友達を応援したり、拍手するなど、挑戦する楽しさ、応援する楽しさ、褒めてもらう満足感も味わいながら探求していく。

・他クラスの保育者や体育指導員にも見てもらう機会を作り、より、満足感が得られるようにする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・子どもたちは初めは落ちてしまうこと、ハードルを倒してしまうことを楽しそうにしていたが、次第に「どうしたら落ちないかな」「どうして倒れちゃうんだろう」と工夫する様子が見られた。保育者は子ども自身が工夫し、気づく姿を大切にした。

※詳細は2枚目以降に記載

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

とても集中し取り組む姿が見られた。初めは難しいと感じながら、経験を重ねながら「できた!」という喜びや達成感が、次のステップへ挑戦する気持ちに繋がっていた。

子どもたちは「どうしてできないのかな」「どうやったらもっと高く跳べるかな」と考え、次第に手の指先、つま先まで意識が向けられ動かす様子が見られた。楽しみながらバランス力が増したことで、園庭の吊り橋の渡り方も、手と足を使い、バランスを取りながら歩くことができるようになっていく。今後も様々な感覚の不思議を、子どもたちが楽しみ、工夫しながら探求していきたい。

*映像や写真を見ながら全職員で活動研究を共有し、保護者様には降園時に会話や掲示、クラスだより等で報告。子どもたちの活動内容や楽しむ様子をお伝えした。

とうきょうすくわくプログラム 活動報告

東野川保育園みんなの家 つくし組 2歳児（10名）

テーマ
ふしぎ

園庭にある丸太の橋の遊具が大好きな子どもたち。体の使い方、バランスの取り方が少しずつ分かり始めている中、より一層体の感覚・バランスを楽しめるように体の感覚・バランスの「ふしぎ」をテーマに設定しました。

活動① ウレタンブロックの上を歩いてみよう！

用意した物：ウレタンブロック

《2月～3月》

園庭の広い場所を使い、ウレタンブロックを平均台に見立てて、一人ずつ歩いてみました。どうやったら渡り切れるのかお友だちの様子も見ました。

どうしたら落ちないで歩けるかな？



ゆっくり歩いたらいいんじゃない？

手を広げて…



子どもたちが「もっとやりたい！」と意欲的だったため、活動の途中からウレタンブロックを、もう一つ追加しました。長くなったブロックの上でも集中し、渡り切る姿が見られました。

活動② ハードルをジャンプして飛び越えてみよう！

用意した物：ウレタンブロック、ハードル

ウレタンブロックを渡りきることができるようになり慣れてくると、子どもたちは渡り切った後に、ウレタンブロックから降りる際にジャンプしていました。その姿を見て、ハードルを設置し、ジャンプをして越える場所を作ってみました。



どうやってジャンプしようかな…？



せーのっ！



一回目はほとんどの子どもたちが、ハードルを越える際に足が引っ掛かり、ハードルが倒れていました。「なんでだろう？」とハードルと向き合い、途中から膝を曲げたり、「せーの！」と声を出してジャンプしてみると足が揃いやすくなったりと、引っ掛かることが少なくなっていました。

活動を振り返って

とても集中しながら楽しんでいる姿が印象的でした。どうやったら渡れるのか一歩ずつ足を前に進める度にゆっくり考えている様子や、どうやったらバランスがとれるか、失敗し、工夫しながら楽しむ姿が見られました。改めて、体のバランス感覚を子どもたちが楽しみながら体感できたのではないかと思います。